



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

「子どもの居場所」近況

なんにわ“Open Day”… いまは紙上で

4月の引っ越しから4か月が過ぎようとしています。場所を変えたのだから「居場所オープンデー！」でもやろうかという話が出るのが以前の「なんにわ」でした。しかし、コロナの蔓延は今も続き、そんなイベントは難しい状態。そこで、前号に載せた居場所レイアウトに写真とコメントを付けて紹介しようということになりました。さて、みんなが集う8畳間は“ニンテンドー・スイッチ”が人気ですが、同じ部屋に置かれたPCで動く「Roblox」も開かれる時間が多い。自由にゲームを作成・共有し遊べるという、オンラインシステム。小学生とスタッフがゲームを作ったり遊んだり。いままでにない動きが見られます。「つくって食べよう」はお休み中。次回には「再開しました」とお知らせしたいです。(手塚)



画像・映像作成/ゲーム用に導入したPC。このごろは“ロブロック”が動いています。



↑ 音楽スペース

ときどき若者が個人練習やバンド練習に励んでいます。もちろん子どもたちの参加もOK。スタッフも混ぜてもらってミニ音楽会になることもあります。マスクを外して歌えないのが残念。ウクレレ、ギター、キーボード…「カホン」もありますよ。

← 本箱

今のところ、どちらかというとカタイ本やテキストが多いです。これから、絵本、歌や詩の本、図鑑なども増やしたいと思います。向かいにハンモックあり。寝そべて午後の読書もよいかもかもしれません。



← 玄関入るとこんな風景。ボードゲーム用の低いテーブルとイス。ウクレレとギター、漫画本コーナーにも手が届きます。マスク、消毒液もここにあります。

洋間の一部は事務スペース → 中央のテーブルで訪問・見学の方とお話することも。



目次

子どもの居場所・オープン	1
通常総会(第18回) 報告	2
不登校支援の新たな時代へ(講演)	3
活動報告	3
こんな本はいかが?・58	4

居場所のひとこま

だいぶ前に「ベイブレード」というおもちゃが流行った頃「ベーゴマ」もあるよと遊んだことを思い出しました。引っ越し荷物を探したら出て来ました。高いの低いのいろんなタイプがあります。さて「床」を作ろうとプラスチックの洗い桶とお米の袋をスタッフが用意。ゴマの回し方を忘れてしまったので、ひものかけ方をネットで調べ練習中です。(N)



第18回 通常総会・報告

5月7日(土) 午後1時30分より、日光市民活動支援センターにて第18回通常総会を開きました。総会資料(議案書)を会員宛送付し内容確認のうえ委任をいただく形を取りながら、希望の方には参加いただき、通常通りの開催といたしました。

総会は予定どおりに始まり、正会員数:51名のところ、出席会員数:33名(うち表決委任者:22名)により総会の成立(正会員総数の2分の1以上の出席)を確認いたしました。

「2021年度事業報告・収支決算」および「2022年度事業計画案・予算案」の全議案が出席者全員により承認され、総会を終えました。ただし、会計処理および貸借対照表の記載について、会員からの助言がありました。意見を取り入れ本年度に改善を行います。会員のみなさまのご協力に感謝します。以下は本年度事業計画の概要です。(紙幅の関係で事業名は短縮しています)

(1) 居場所の提供と学びの場の運営

日光市委託事業「日光市子どもの居場所・学びの場」は10年目を迎えました。引き続きスタッフ2名体制で実施します。学校長期休業中の平日も昨年同様に居場所を開きます。コロナ感染症対策についても引き続き発熱チェック、マスク励行など基本的な対策を行いながらの開所です。

昨年度の居場所登録者数は19名(小学生10名、中学生9名)および高校生以上4名でした。開所日は226日、延べ663人(小中学生:496人、高校生以上:167人)の通所がありました。小中学生は昨年より80%増加し、子ども同士の交流も見られ、元気に活動できました。食事会「つくって食べよう!」は昨年後半から要望に応じて少人数で実施していましたが、残念ながら「第6波」以降はお休みしています。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した学び

「学びサポート」を毎週金曜日午後7時から9時まで日光市民活動支援センターで実施しています。現在の参加者は小学生1名、中学生1名です。希望教科の学習支援、簡単な実験、楽器練習などに取り組んでいます。

(3) インターネット、ITを活用した学び支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開しています。定期的な更新により、居場所の紹介、活動の紹介、自然環境についての情報などの発信を行っています。居場所ではWebカメラや会議用マイクスピーカなどがそろい、リモートおしゃべり会の設定も気軽にできるようになりました。遠隔地に転居した方との情報交換に役立っています。居場所の見学などもオンラインでできないか、紹介画像の作成にも取り組んでいるところです。

(4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などに随時対応しました。昨年度相談件数は43件、訪問者は48名でした。いずれも2020年度より増え、関心の高さがうかがえました。通信「なんとなくのひろば」を3か月間隔で4回発行、各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布しました。

(5) 青少年、障がいをもつ人の相談および就労支援

施設見学などのイベントは感染を避けるため、実施を見送りました。引き続きベリー会への参加、「かがやき」、「だいじょうぶ」など地域支援団体との連携を行っていきます。

(6) 自然の中での学び、自然環境保全活動

「今市の水を守る市民の会」との共催行事、昨年度は「川むし調査」として有志のみで実施しました。感染状況を見て、秋の実施を検討しています。昨年度は畑でのジャガイモ栽培(植え付け、管理、収穫作業)を子どもたちと行いました。本年度は引っ越しのため、手が回らずお休みです。環境測定班の放射能測定は随時継続中です。

(7) 障がいの理解および啓発

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きました。気軽な雰囲気集まり、子育ての悩みを話し合う時間を大切に続けていきます。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

・特定指定相談支援事業(さくらそう)

昨年度は相談支援専門員1名で110名ほどの計画作成・モニタリングを延べ211件実施しました。放課後等デイサービス・居宅介護・同行援護(視覚障がい者への移動支援)・福祉的就労等の福祉サービスを継続利用するための支援が主でした。そして、1ヶ月に1人程新しく関わる方が増えました。ご本人の状態が悪くなれば、福祉サービスを利用できない状態となる方がいる一方、子ども達は支援を受けて自信をつけ、卒業・進学・就労など元気にステップアップしていく姿があり、力をもらっています。引き続き障害を持った方々への支援を行うとともに、他団体や個人に当法人の居場所事業や茶話会、学びサポートを紹介していきたいと思えます。(西尾)

・相談支援事業(市役所出向)

2014年5月から市役所1階社会福祉課「日光市障がい者相談支援センター」に出向しています。コロナ感染拡大の影響でしょうか、昨年度は今までにない忙しさを感じた年でした。一年間で1,803件、月平均にすると150件、日々7~8人の障がい者の方からの相談を受けました。とくに目立ったのは、新規相談が106人(月平均:8.8人)と多かったことです。福祉サービスに移行させることが難しく、相談業務の難しさを痛感する年でもありました。この傾向は本年度に入っても続き、日々入ってくる新たな相談に忙しく取り組んでいます。(栗原)

以上が今年度総会の概要です。感染の心配のため、終了後の交流会、お茶を飲みながらの話し合いや情報交換が難しく、一方的な報告で終わってしまったことを残念に思います。さまざまな情報がメディアに現れては消えていく時代。人々の多様な思いや生き方が目の前を通り過ぎていきます。唯一の原理原則に寄って立つかんがえからは自由になろうよ、という風を感じるいっぽうで、いまある秩序からの逸脱は望ましくないという圧力がじわりと広がっているように思うのは私だけでしょうか。「多様であること」っていったい何だろう、「教育機会確保法」にも書かれている「学校以外の多様な学び、一人ひとりに合った居場所と学習環境の確保」ってどう考えたらいいんだろう。この栃木でもたくさん「居場所」や「学びの場」が立ち上がっています。各地の実践を参考にしながら、「なんとなくのひろば」に集う人々とともに、「居場所のこれから」を話し合い、構想していければと思います。

昨年度に引き続き、「NPO なんにわ」は理事9名、栗原真佐美、白井佐智子、手塚郁夫、中島直弥、西尾敬子、福田尚史、丸本香、村上幸子、吉成勇一、および大久保みどり監事で運営いたします。

みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。(手塚)

☆ 活動日誌

- 4月24日(日) ベリー会
 4月25日(月) 通信「なんとなくのひろば」第67号 発行
 4月26日(火) 第107回 理事会
 5月7日(土) 第18回 通常総会(日光市民活動支援センター)
 5月9日(月) 茶話会(第117回)
 5月25日(水) 下野新聞取材
 5月29日(日) ベリー会
 5月31日(火) 宇都宮大学国際学部の有志見学
 6月3日(金) 下都賀教育事務所・スクールサポーター見学(2名)
 6月13日(月) 茶話会(第118回)
 6月21日(木) 日光市役所地域振興課インターン生・見学
 6月25日(土) 不登校支援の新たな時代ー教育機会確保法の広がりを知ろう(オンラインで参加)
 6月26日(日) ベリー会・19周年記念講演会 講師:馬場佳子さん
 7月5日(火) 第108回 理事会
 7月11日(月) 茶話会(第119回)



平ヶ崎居場所で人気だったハンモック。いまは図書コーナーの向かいでユーザを待っています。

講演会：不登校支援の新たな時代へ ～教育機会確保法の広がりを知ろう～

主催：NPO法人とちぎ教育ネットワーク 2022/6/25(土)
 講師：喜多 明人 さん(早稲田大学名誉教授)

中村 みちよ さん(フリースペースつなぎ代表理事)

オンラインで参加しました。「確保法」のもと、「学校外の多様な学び」を支援する動きの広がりを「不登校支援から多様な学び支援へ」という言葉で表現。長野県上田の事例(信濃毎日新聞2022/5/5)など、「多様な学び」の出席扱いの広がりについての解説があり、「学校復帰を前提とせず、社会的自立を判断基準にした出席扱い」(10, 25 文科省通知)、「多様な学びの経済的支援」(茨城県の授業料・運営費など経済的支援)など各地の動きとつながっていることを実感しました。日本学術会議(心理学・教育学委員会 = 排除・包摂と教育分科会 2020年8月26日)の提言、「すべての人に無償の普通教育を・多様な市民の教育システムへの包摂に向けて」という文書も紹介されました。次号に要旨を紹介できればと思います。

まとめとして、「子ども基本法」の精神をふまえ、子どもの権利保障としての「学び支援」が大切と強調されました。基本法の付帯決議には「オンライン教育、フリースクール、多様な学びの在り方を含めた教育を受ける機会の確保」が明記されています。

後半は「フリースペースつなぎ」(宮城県気仙沼市)の紹介。学校も巻き込んだ「確保法」勉強会、「みやぎ居場所マップ」の作成、不登校アンケートなど、さまざまな活動を行っている様子を知ることができました。(手塚)

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所(日光市今市316-4)
 日時：毎月 第2月曜日(午前10時～12時)
 次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円(お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを話し合っ、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
 (Tel: 090-3227-7079)

下野新聞(6月2日 東北・日光版)に紹介されました ↓

【居場所 夏休みのお知らせ】

居場所の夏休みは
 8月11日(木)～8月16日(火)です。
 それ以外の月～金曜日は学校夏休み中も
 開所します！ よろしくお祈いします。

学校以外の選択肢提供
 不登校の児童生徒が集う
 「子どもの居場所」を運営

今市。「学校以外の選択肢として、存在し続けることが大事」と話す。
 子どもの居場所は2004年に開所し、市の委託事業となつてからは10年目。「委託事業になつたことで認知が広がり、徐々に利用者や相談者が増えてい」とい。一人一人を大事にした支援の継続を重視し、「学校に行かない選択をした子の学ぶ権利を守れたら」と力を込めた。



する日光市のNPO法人
 「なんとなくのひろば」の手
 塚郁夫理事長(70) 〓 同市

居場所利用のお願い

新型コロナウイルス感染の広がりについて、まだまだ安心できない状況が続いています。感染症の終息まで、以下の点にご注意いただき、感染に配慮した居場所利用をお願いします。

- (1) 12時30分～16時30分まで居場所を開所します。
- (2) 来所前は体温測定および手洗いを行ってください。
- (3) 風邪の症状または発熱がみられるときは来所を見合わせていただくようお願いします。
- (4) マスクの持参と着用をお願いします。



感染力の強い「変異ウイルス」はインフルエンザと違い、「無症状の感染者が他に感染させる場合がある」という特性を持ちます。「私は感染しているかもしれず、気付かないうちに周囲に感染を広げるかもしれない」と自覚し、人との接触を避ける行動を。

- ▼ 密な空間を避ける(互いに手の届かない位置で)
- ▼ 大声での会話、同室での食事をしない
- ▼ マスクをきちんと付ける を守りましょ。

空気清浄機を導入+窓を開け、空気入れ替えを行っています。



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その 58

猫が主人公の絵本

今回は猫が主人公の絵本を5冊ご紹介します。猫が好きな人にも苦手な人にも読んでほしい本です。心がじんわりとてきます。

◎「ねこはるすばん」 町田尚子・作 ほるぷ出版 2020年

猫は飼い主が出かけた後、どんなことをしているのでしょうか？きっと猫だっているいろいろな楽しいことをしているのかも？読んでいると思わずにこにこしてしまう絵本です。

◎「なまえのないねこ」 竹下文子・文 町田尚子・絵

小峰書店 2019年

のらねこだってなまえがほしい。自分で考えて好きな名前を見つけようとして。だけど、なかなかぴったりの名前が見つからない・・・そしてほしかったのは名前じゃなかったって気づきます・・・思わず「そうだよねえ」と声をかけたくります。ちょっとうるっときます。

◎「100万回生きたねこ」 佐野洋子・作 講談社 1977年

この絵本は、40年以上多くの人に親しまれてきた絵本です。実はこれは大人のための絵本かもしれません。新聞の書評などでも多く取り上げられてきました。最近私が出会った50代の女性が、「この本がずっと心に残っています」と語りました。少し元気がなかったその女性はこの絵本のあらすじを語ることで少し元気になりました。大人にも読んでほしい1冊です。

◎「タンゲくん」 片山 健・作 福音館書店 1992年

片目がつぶれた迷い猫の「タンゲくん」が家族の一員になっていくお話です。猫の行動はちょっと謎が多いかもしれませんね。猫って甘え上手なんですよ。膝の上で丸くなってくれたりすると、かわいいものです。

◎「ねこのシジミ」 和田 誠・作 ほるぷ出版 1996年

捨て猫だったシジミは家族みんなにかわいがられます。家族との温かい生活がねこの視点で語られます。何とも言えない温かい1冊です。

(白井)

会員について

正会員：51
賛助会員：15
団体会員：4

入会金なし
年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員継続、応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。

みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

なんとなくのへや

日光の川で子どもと大人がいっしょに川に棲む昆虫を採集し、里山・里川の自然を考える集まりが「川むしたんけん隊」です。2019年6月に明神地区の行川・見行地橋(けんぎょうちばし)で開催して以来、コロナ感染の心配のためお休み状態が続いています。

このイベント、「なんにわ」が始まってから「今市の水を守る市民の会」の協力により、毎年数回のペースで実施してきました。昨年5月には候補地調査のため「大人限定川むし」をやってみましたが、子どもたちの声がない「川むし」は寂しいものでした。秋の復活を願っています■その「水の会」が続けているもうひとつの行事に「ゆったりウォーク」があります。代表の塚崎さんを中心に対象地区を選び地元取材、下見を行ってコースを決めて実行する人数限定の「里山暮らし再発見」のミニ旅行。毎回5~8kmを数時間ゆったりと歩きます。昨年10月は長畑の岩鼻山に登り眺望を楽しみました。今年4月には大沢・上板橋から例幣使街道に沿って進み、話題の「鎌倉街道」で昔をしのびつつ明神から板橋に戻るほぼ6kmを歩きました■「地域おこし」というと威勢の良いコピーと派手なSNSに目が行ってしまいがちですが「観光地を避け、長年培われてきた人々の暮らしを身近に追体験する」(水の会・だいや川通信・第52号より)、地域の歴史に触れる小さなイベントには、これからの生活のヒントがあるように思います。(T)